

Title	越前若狭古文書選(牧野信之助選輯, 三秀舎發行)
Sub Title	
Author	有賀, 春雄(Ariga, Haruo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.1 (1934. 4) ,p.175- 176
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19340400-0175

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

無名の俠客を、拉し來つて、封建社會と關聯せしめつゝ、考量した」とあるによつても、本書の目的の概略を窺ひ得らるゝ事と思ふ。

本書は、第一章俠客の概念、第二章（俠客を中心とする江戸時代）社會概念、第三章俠客發生の原因、第四章俠客に對する幕府の態度、なる四章、二十三節より構成せられ、その内容は繁雜にわたるを以て省略する。要するに、著者が俠客なる課題の上にこの研究を進められ、常に偏する事なく、高位の普遍的命題の下に内的批判を試み、而も動的史觀を信條とし、綜合せられしを喜ぶも、資料の選擇の點に今少しく留意せられんことを望む次第である。本書は、歴史家は勿論、江戸時代の研究に従事せらるゝ、諸賢に一讀せられんことを御薦めする。終りに臨みて、著者は將來俠客の發生、轉化の誘因を、精神的、經濟的、更に政治的、社會的、法制的の多方面より考量せられ、其間素因と動因との二大分野に、その研究を進めらるゝ由、その大成の日を渴望し擱筆する。

（昭和九年二月一日 宇宿 捷）

越前若狭古文書選

（牧野信之助選輯）
（三秀舎發行）

本書は三秀舎創業三十年記念出版の一である。所收古文書の數實に七百餘通、その間幾多の精巧な實物寫眞を挿入した豪華版である。所收古文書は、大正五年より同十年に亙り福井縣に於て編纂されたる福井縣史の材料となりし「稿本福井縣史料集」並に選輯者牧野氏の手控よりその粹を抜いて集録せられたものであつて、これを地方別に配列し、文書所有者毎にその所載文書につい

て簡單なる解説を附し以て文書の理解に便ならしめてゐる。

選輯者牧野氏は本書巻頭に「越前若狭に於ける古文書の分布」なる一文を掲げて、該地方の古文書につき綜觀をなしてゐるが、それによれば、此の地方に古代文書の稀少なのは奈良朝以降平安・鎌倉時代にかけて未だ中央に對し戸口稀薄にして好箇の開拓地たり、從つて文書は自然中央に保存せらるゝ事情にあつた爲となし、更に源平以來南北朝より朝倉氏時代にかけての戰禍は由緒ある大社寺の什器を多く失はしめ、また元龜天正の交、信長の一向宗一揆に對する攻伐に於て社寺の多く燒燼せる爲め亡夫せる記録も少なくなかつたであらうとせられ、從つてこの地方の古文書の時代が著しく降下せる事情を説明して居られる。文書の種類については、土地制度に關するものとしては大開檢地のもの、村落に於ける山割土地割の規定證などが多く、村落制度に於ては中世以來の刀禰制度に關する文書に注意すべきものがあり、中世末から近世初頭にかけての商業上の史料中には座及び問屋に關するものが、奥羽・西國へかけての海上交通史料と共に福井及び各港市に多く存し、更に庶民階級のものでは馬借・木地挽・舞曲・陰陽等に好史料となるべきものが隨所に存して居り、又宗教史料として特筆すべきものには名僧の自署文、一向宗一揆に關連して本願寺の顯如・教如・准如等の消息もしくは專修寺眞智の書狀、又は一揆の一首領賢會の陣中密書の如き特殊のものありとなし、武將文書としては朝倉孝景・柴田勝家・松平秀康・本多富正・酒井忠勝等のもの多く、その他幕末維新に於ては福井・大野藩など目覺ましい活動をなしてゐるが、所藏者が土地を離れた爲に此の地に存する

ものは比較的少ないと述べられてゐる。越前若狭地方に關する歴史研究者にとり、又は特殊な文化史の研究者にとり貴重な史料集である。(定價金九圓)(有賀春雄)

忌宮神社文書 (防長史談會編)

本書は「防長古文書第一編之一」として出版されたものである。忌宮神社は國幣小社であつて長門の國府即ち長府に在り、もと仲哀天皇を祀り後神功皇后・應神天皇を祀り、また別殿に仁德天皇を祀るといふ。神事に數法庭(スホフテイ)と稱する特異なる跡ありと。

本書に收められたる古文書は永萬二年二月の社領證文以下寛文十一年三月二宮造營注記に至る百八十二通、外に正和元年と寶永三年の梵鐘銘あり。時代的にみれば、平安朝のものとしては前記永萬二年の社領證文二通のみ、鎌倉時代のものとしては永仁以後の御教書や多く、南北朝では大内・厚東の二家をはじめとし長門國宣・足利尊氏・直義・直冬・一色直氏・範光等の武將の文書多く、その後大内・毛利に及んでゐる。慶長以後のものも四十數種あり。單なる神祇史料のみに非ず、中に中國・九州等の治亂に關するものもあり、貴重な史料たるを失はない。(有賀春雄)

小縣郡民譚集 (諸國叢書第三編)

(小山眞夫著)
(郷土研究社發行)

北安曇郡郷土誌稿 (第五輯) (民謡童言葉篇)

(信濃教育會北安曇部會編)
(郷土研究社發行)

民間の傳承を採集してこれを記録することは現下の民俗學に於て先づなされねばならないことであるが、これは地方在住の研究によつて初めて爲され得る問題である。近來地方の團體及至個人によつて、この急を要する仕事に着々進められてゐるのは吾人の最も欣快とするところであり、これに與る人々に對し深甚なる敬意を表する次第である。

小縣郡民譚集は小山氏個人の努力の賜であるが、氏は明治二十九年以來民譚蒐集に努められ、前後八回に互つてこれを編纂發表し、それ等諸篇に収録せられた四百餘話の中、二百八十話を選擧して本書を集成したのである。内容はこれを傳説と童話の二篇に分ち、傳説篇は地方的にこれを配列し、童話篇は物語の種類によつて同種の一括してゐる。これによつて吾人は小縣郡が如何なる説話の分布地なるかを教へらるゝと共に、更に民俗學に對し貴重な材料の提供されたのを悦ぶものである。

北安曇郡郷土誌稿(第五輯)は同郡全般に互つて採集せられた民謡・童言葉の集成であつて、北安曇郡に於て教育に従事せらるゝ研究者の努力の綜合である。採集された數量實に五千六百餘のうち、それを整理して一千五百餘種を擇んで収録されたものである。分類法は先づ民謡・手毬唄・童言葉の三種に大別し、童言葉を遊戯語と言ひぐさに分け、民謡の分類は作業別によつて種目を分ち、更に發生的な順序を遂ふて配列されてゐる。蓋し此の種の編輯に一つの規範を示したものとひ得るであらう。(小縣郡民譚集・定價金壹圓八拾錢、北安曇郡郷土誌稿(第五輯)・定價金壹圓)(有賀春雄)